

●秋のハイキング3日 八丁平 里山の会から8名 応募者160人で参加人数40名でした。現場に到着すると人里は雑草が茂っており田舎だという印象でした。ところが八丁平と言われる場所では鹿の影響によって植物は、シダ類ばかりの状況に変わって花を確認する場所がありませんでした。自然観察会とされていましたが、落ち葉を拾って樹木の名前の紹介が行われるというものでした。里山の会が発足した約20年前では植物を目指す人は、一度は芦生を訪ねておくべきだと教えられていました。温暖地帯と隣接して積雪が半年間続く場所だから豊かな自然が育まれている宝庫であると教わっていました。そして生育植物の教科書でもあるとのことでした。このころから鹿による自然破壊が始まっていると心配の声がちらほら聴かれ始めたころです。あれから約10年たったころ防除網の設置が行われ始めました。それでも、まだまだ春には緑が溢れていましたが、今日では見る影もなく、谷合も山間も地肌がむき出しになり悲しくなるほどの裸地続きになっており、あの心を癒してくれた自然はどこに行ったのかという大変貌です。それが一帯に広がっていて、芦生の悲しい姿だということでした。八丁平の湿地も乾き、姿を失っていました。この日のガイドは元里山の会に在籍されていた出口（イデグチ）さんが、担当されて気楽に解説をお聞きしました。全行程4時間でした、女性にはかなり厳しいトイレ問題が発生したようです。特に寒さも厳しく雨も降りだす天気でしたので、かなり厳しい条件での観察会になりました。

●京田辺市民文化祭の準備のうち、期日に間に合わさなければならないのが2日の松傘ツリー台座つくりと3日の松傘ツリー組立てでした。裁断のために丸鋸を運びこみ草内倉庫で5人が2時間かかりで250個の台座を切り揃えました。3日は主力メンバーが秋のハイキングに参加でしたが、事務局会議終了後メンバー4人が2時間かかって、300台の組立てが完成して、一応松傘ツリーつくりの用意ができました。この作業では松傘の根っこに穴あけが難しく、ドリルの歯先の改良工夫が必要と思いました。

●京田辺市民文化祭 前日準備4日（金）午前9時事務所に集合 ただちに予定の行動に移りました。農園関係者は柿の運搬や選別を行い、午後から販売用の野菜の収穫・洗って土を落として束ねました。薩摩芋や里芋を袋詰めして、157組が完成しました。展示関係者の伊藤さん金田さん播川さん達は約10mのボードに農園で使った鳥害防止のネットを背景に張り付け、展示ケースと説明文や名札を張り付けました。金田さんは、この日午前5時に起きて木津川でのカラスウリの実を採取してアクセントをつけて里山の会らしい雰囲気をつくっていただきました。飾りつけも随分とコンパクトになり、シンプルにまとめて観客にわかりやすい展示が完成しました。模擬店関係では販売物の数量によって変化があるので机椅子など備品の運びこみに止めました。

●初日の取組 午前8時から模擬店の配置や会場内の模様を考えて人通りの一番目立つ場所に柿売り場を設置して隣に青物を並べ、里芋や薩摩芋も並べました。続いて蜂蜜などもつる籠と前後して配置できました。中ほどに大きな円形テーブルを置き、松傘ツリーつくりを設置しました。小さな円卓も随分と効果を発揮してくれました。テーブル中央に三角の松傘ツリーの案内看板を立て、10脚の折りたたみ椅子を置いて準備が整いました。のぼりを3本立てて、かなり目立ちました。設定していく中で竹の脇池が眼下にせまり、随分と落ち着いた場所で、景色のいい風景に改めて気が付きました。人の流れでは体育館の玄関が一番賑やかで売れ筋です。ここも景色を計算に入れた工夫があれば弱点を活かした取組になるのではないかと思います。このあたりに食事場を集中させるのも広く会場を使用する方法ではないかと思われた。体験コーナーや食品コーナー小物コーナーなどでランダムな並べ方ではなく専門コーナー域つくりも取り入れると面白いのではないかと思いますがいかがでしょうか。

●二日目の取組では、風が強く、寒くて池の傍には人の足が向かないようです。場所の設置で随分と売り上げに差が出ています。こうした流れ対策として人寄せパンダが必要ではないかと思われます。池や景色、開放感など活用の工夫が必要でしょう。同じ繰り返しでは不公平の解消にはならないでしょう。花見山公園や池を取り入れれば、使った取り組みも企画すれば随分と大規模な取り組みにすることが可能だと思います。

●**打ち上げに 15 名** 市民文化祭への取り組みや夏の魚とり・講演会、会誌発行と文化の秋やスポーツの秋という素晴らしいシーズンの総仕上げとして、慰労会を開催した。数年前まではフードサービス店を活用してきましたが、今回は、久しぶりに里山の会事務所で打ち上げ慰労会の開催です。出席者は 15 名でしたが、かなり盛り上がりました。深田さんから各種の取組への御協力に感謝の挨拶に続き、青代さんの乾杯の音頭でウーロン茶、ノンアルコールなどで 2 時間大いに懇談歓談がすすみました。有田さんがトランプでの手品の披露に爆笑のうちに終了となり、明日からの意欲が盛り上がり後かたづけをして散会しました。ご苦労様でした。

●**アユの生育調査** 5 日 開橋 15 名参加 文化祭の初日にバッティングしたので、関心のある皆さんは参加できなかったのですが、アユ調査会が行われました。この日は落としあみ魚という古来漁法を受け、ついておられる大杉さんが中心となって、随分と多くのアユを捕獲されたと伺っております。午後から 2 時間程度の調査でしたが、確実に木津川にアユが戻ってきているということが証明されました。あちこちの川でアユのたまり場は確認されてきているようですが、たまり場が連続する川はなかなか珍しいことのようにです。木津川での復元回復が随分と待たれるところです。その後カワウが笠置まで登っていたようですが、近頃は随分と下ってきているのは、いよいよアユ魚の終盤に差し掛かってきている証明でもあると指揮者の言葉でした。

●**城陽環境フェスタ 6 日** 深田さん担当で 魚とり 竹蛇籠の取組発表 バッティング続きでしたが、6 日に行われた城陽市での環境フェスタもバッティングしました。ここでは竹蛇籠の取り組みや、親子で遊ぼう学ぼう魚とりの展示に参加しました。各自治体で環境フェスタが実施されていますが、宇治市でも同時に開催されています。宇治市は広野中学化学クラブが市内の西部を流れる木津川の支流の名木川の水質調査を発表しています。

●**第 10 回近畿の子どもの水辺第 3 回実行委員会** (来年 2 月 4 日 (土) 神戸市元町 県民会館で開催) で学生代表に矢放七海さん (京田辺市興戸在住 近畿大学生 3 回生) が中心になって運営されます。前半の 5 回までは NPO 関係者が担い、6 回からは若手 (学生) を加え次代の担い手育成を掲げて取り組みを進めてきました。大阪では小林慧人君、京都では北野大輔君、ならでは山本賢樹君が担ってきました。今回は矢放七海さんが大役を引き受けまして、随分と斬新な企画でした。兵庫県の底力が発揮されるものです。さて実行委員会でこれまでの取組の大きな課題は主会場の借用経費、河川協会からの助成金の減少、事務局担当者の事務量の負担などが課題として挙がっておりました。10 年 10 回を契機にひと段落として、形態を残して、次回は同規模での開催を行わないとなりました。10 回目が最終回です。実行委員会の継続を図りつつ、各府県での開催を目指そうという点で一致しました。とりあえず、実行委員長は大阪府関係において受け持つことを確認し、滋賀、京都、奈良、兵庫と回し、年一回の実行委員会の開催ということになりました。京都府関係では 2017 年 8 月 19 日 (土) 淀川三川合流施設を使って開催の方向でという意見がありました。

●**里山農園 14 号地草刈完了 随分と景色がよくなる** 里山農園の秋の草刈りは随分と進みました。残るところは 12・13・14・15 号地と周遊通路となりました。今年最大の問題の持ち込みは、ササユリの掘り起しも過日完了しました。先日深田理事長が 14 号地の草刈りを行っていただき、随分と府道からの眺めも整ってきました。残るは 10 号地 11 号地の山手の巨大クヌギの立枯れの伐採が新しい課題となってきました。すでに主枝の一部は落下する事態も見られます。1 号地の斜面中腹の巨大木の倒木も考慮しなければなくなっています。これらの枯れ木の除去は 1 号地 2 号地での農作業中に倒壊すると大事故は免れないと思われます。一日も早く里山農園の手入れとして実行し、安全確保に努めなければなりません。早期に行いたいと思いますので、その節にはご協力をお願いいたします。